

授業概要

この授業は、保育の質を健康教育学の観点から考究するものです。入学後からの履修内容（健康Ⅰと幼児体育、保健、教育、心理、5領域Ⅰ）をベースに、胎児期から学齢期にかけての子どもの育ちの概論や健康教育学の諸問題を様々な角度から眺め、援助の心もちについて講義や討議をしてゆきます。

近年の医学・公衆衛生学においては、健康教育と共に社会生態学的側面を重視した健康環境支援の構築にも注力するライフコースアプローチが採り入れられており、そこでは、胎児期からの一次予防の重要性が強調されています。加えて今後は、早期からのメンタルヘルスへの対応も求められるようになります。しかし、現実的には動機づけが難しく、具体的な健康行動及び健康支援に繋がっていない現状があります。この授業では、子どもの育ちに関する学術的価値の高い論文（所謂エビデンス）や論説（小児科医、教育者、援助者、研究者）、直近の幼児健康調査の結果と分析、等を提示し、以って皆さんの将来の仕事に対する覚悟と矜持を高める、そんな感じで進めます。そして最終的には、皆さんは一次予防の枢要な担い手だ、ということが伝われば幸いです。一昨年度から、学校教諭に就く人への配慮として、がん教育についても説明しています。

授業計画

第 1 回	総説
第 2 回	日本の小児医療・保健環境、学校保健安全領域への円滑な接続
第 3 回	現代社会と子どもの健康（健康のとらえ方、影響要因、健康生成論）
第 4 回	現代社会と子どもの健康（健康課題の時代推移、健康Ⅰと幼児体育の重要性）
第 5 回	心を育む（胎児の自発性、赤ちゃんの探索活動、認知）
第 6 回	心を育む（情動と気質、情緒の発達、情緒と社会性の関連）
第 7 回	心を衛る（精神疾患の現状と傾向、傾聴と共感、家庭への対応）
第 8 回	心を衛る（非日常時の対応 - 医師、看護師、心理専門職、養護教諭と共にできること - ）
第 9 回	遊びの理解（遊びの意義と性格、遊びの発達、見守る側の心もち）
第 10 回	遊びの理解（認知・非認知的能力とライフスキルの関連）
第 11 回	<u>アクティブラーニング</u> （第 10 回までの内容に基づき、レポート作成や議論を実施。受講人数によって実施形態は変動）
第 12 回	子どもへのがん教育「先生、がんって何？」と聞かれたら、予防・検診、命の重み）
第 13 回	生活習慣の獲得過程と援助（特に、安心・安全教育について）
第 14 回	食育（共食と心の健康、朝食・農業林業体験、子育て・子育て支援を地域みんなで）
第 15 回	改訂のねらい（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）
第 16 回	試験

到達目標

- ・「健康のとらえ方や影響要因」について説明できる。
- ・「子どもの情緒・社会性にかかわる発達と、保護者そして保育者の役割」について説明できる。
- ・「子どもの発達と遊びの広がり、保護者そして保育者の役割」について説明できる。
- ・「安全管理と安全教育の重要性や、援助者としての非日常時の対応」について説明できる。
- ・「幼児期のスキル形成はその後の人的資本形成の基礎をつくる。学びは更なる学びへとつながる。幼児期への投資は重要である（Heckman and Masterov, 2007.）」ことを、理解できる。
- ・「共食の重要性や、食物アレルギーを有する子どもへの対応（特に災害時）」について理解できる。

履修上の注意

保育内容（健康）Ⅰを履修済みであることが望ましい。
 保育内容（健康）Ⅰと同様に、出欠チェックを厳しくおこなうので、注意すること。

予習・復習

予習は必要ありません。主体的に参加（メモ、発言、議論）し、実践へとつなげてください。

評価方法

受講態度（20%）、アクティブラーニング（40%）、学期末試験（40%）

テキスト

全てこちらで用意します。